

2010年度

科目名	心理学実験B		
担当教員	中尾 将大		
配当	人社2	コード	42430
開期	後期	講時	木曜日2限
		単位数	1
授業テーマ	実験を通じて科学的なものの見方を身につける。前期の内容を踏まえ、応用編とし、パソコンソフトを用いた実験も行う。		
目的と概要	心理学の基礎実験を通じて、実験の方法、実施、データのまとめ方、処理方法を学ぶ。ヒトの精神活動を科学的に捉え、データからわかることを客観的に記述する術を身につける。教科書に載っているような行動の変容が実際に見られるのか。受講者自身の眼で確かめて欲しい。		
成績評価法	平常点(20%)および各課題について提出するレポート、授業に対する姿勢など(80%)、総合的に評価します。		
テキスト	内容に合わせてプリントを配布します。		
参考書	実験とテスト＝心理学の基礎(実習編)心理実験指導研究会 培風館 実験とテスト＝心理学の基礎(解説編)心理実験指導研究会 培風館		
履修に当たっての注意・助言	基本的に欠席はしないで下さい。実験は継続性が重要で毎回出席していないと実験の内容が理解できないだけでなく、レポートの作成も出来なくなります。		
講義計画			
<p>1. 3,4名をひとつの班とする。班ごとに各実験課題に取り組み、各自でレポートを提出し、結果を発表する。</p> <p>2. 1つの実験課題は、3週間に1つの割合で実験を行い、レポートを作成し、提出する(4週目)する。</p> <p>1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など</p> <p>2週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導</p> <p>3週目 結果分析、レポートへのまとめの指導</p> <p>4週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など (同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する)</p> <p>3. 各実験課題は以下のとおりである。</p> <p>(1) オペラント条件づけ 我々をとりまく環境内には多くの刺激に満ちている。その中で我々は刺激間の関係性を学習し、自らの行動を統制して環境に適応していく。バーチャルのラットをうまく誘導して条件づけの実験を行う</p> <p>(2) 学習の転移 鏡映描写器を用い、鏡映描写学習が他の学習からどのような影響を受けるのか転移現象(正の転移/負の転移)の有無を確認する。</p> <p>(3) 要求水準 要求水準が作業の成功・失敗、満足度によってどのように変動するのかを検討する。 要求水準を測定する作業材料はそれぞれに工夫する。</p> <p>(4) 対連合学習 対連合的中予言法を用いて、有意味語と無意味語とに新しい連合を形成させる。 その過程が漸増的か否かを検討する。</p> <p>[受講の条件]1回生配当の「統計学AおよびB」また「心理学研究法」を履修済みであること。もしくはこれらの科目を同時に受講していること。[人数制限] 実験器具の数に限りがあるため、受講定員を40名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員を超える場合は、抽選します。受講希望者は、心理学実験Aの第1回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。1回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録はできません。後期の授業ですが、前期に抽選します。</p>			